

規格苗の適期移植で初期生育を確保！

1 育苗後半の管理

育苗様式	管理ポイント（温度・水管理等）
稚苗・ハウス	① 温度管理：日中 15～20℃、夜間 10～15℃ ② 硬化期前半 ・午前中早めにハウスの換気を始め、夕方には閉める。 ・かん水は朝に充分行き、原則夕方には行わない。（床土が乾いた場合のみかん水する） ③ 硬化期後半 ・田植え 5～7 日前からは夜間もハウスを開放する。（異常低温時は除く）
露地・プール	① 無加温・露地プール育苗では低温による出芽遅延や苗揃い不良の懸念があるため、除覆前は保温に努める。 また、降雨後は酸欠とならないよう、被覆の上やプール内にたまった余分な水を排除する。 ② 除覆、湛水後は苗が伸長しやすいので水温の上昇に注意し、必要に応じて水の更新を行う。 ③ 霜注意報等、異常低温が予想される時は速やかに床土より上まで湛水する。 ④ 育苗箱を軽くするため移植 2～4 日前から落水する。

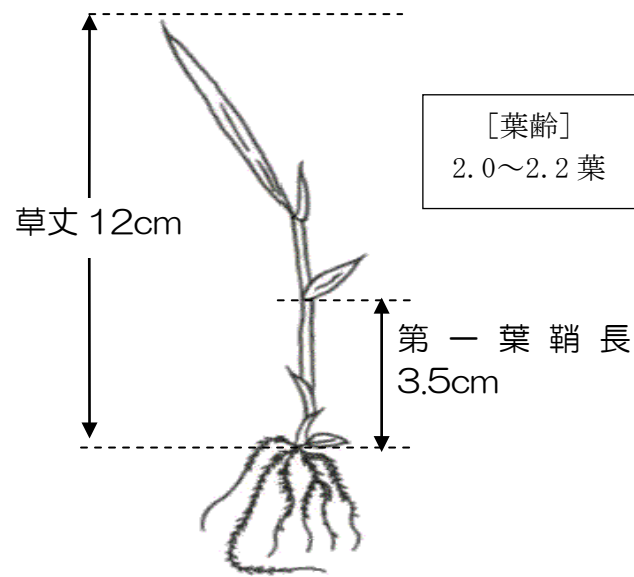


図 稚苗の理想像（規格苗）

2 移植前追肥（べんとう肥）の施用

- 施用時期は移植 4～5 日前（1.8 葉期）が基本です。苗の老化防止と移植後の活着を早める効果があります。
- 窒素成分で 1 箱当たり 1～2 g となるよう、肥料を箱の上から散布します。散布後は十分散水して肥料ヤケを防ぎましょう。
- プール育苗の場合は箱の上まで水を張り、施用後は 2 日間程度落水しないようにしましょう。
- 軟弱・徒長苗の場合は、障害発生の可能性があるため追肥を控えましょう。

3 施肥設計

基肥は、良質茎の早期確保のために重要です。しかし、施肥量が多すぎると過剰生育となるため、前年に生育過剰となったほ場や倒伏したほ場では減肥しましょう。それぞれのほ場の地力に合わせて施肥量を設計することが重要です。

【コシヒカリ基肥量のめやす（平坦地・中山間地）（kg/10a）】

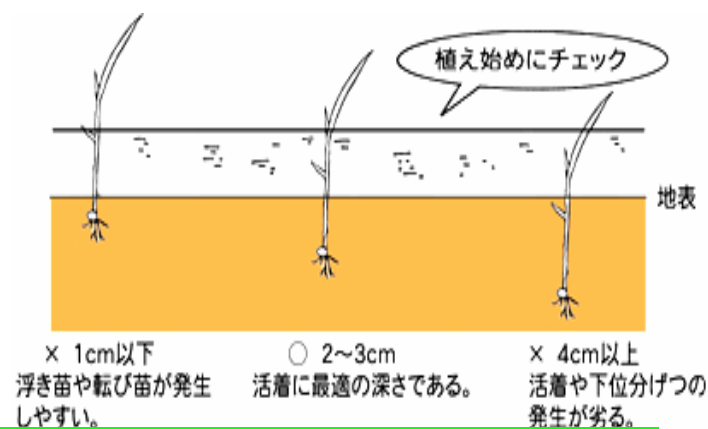
成分	チッソ	リン	カリ
粘土質	2～3	5	4
砂質	3～4	6	6
黒ボク	5	8	7

【こしいぶきの基肥量のめやす（kg/10a）】カッコ内は中山間地の値

成分	チッソ	リン	カリ
粘土質	3	7	6
砂質	4	8（5）	6（4）
黒ボク	（5）	（8）	（7）

4 適期移植と移植時の留意点

- 苗の老化を最小限に抑えられるよう、計画的に作業を進めましょう。
- コシヒカリは、出穂が早まり高温登熟によって玄米品質が低下しないよう、5月10日以降の好天日での移植を心がけましょう。
- 早生品種は、早期に茎数を確保するため、5月上旬の移植を目標としましょう。
- 中山間地では、分けつ不足で穂数確保ができず、収量が低下しやすくなるため、疎植を避け、坪当たり60株以上の栽植密度で植えましょう。
- 移植作業の良否は、活着・初期生育に影響を及ぼすので、下記の事項に留意してください。
 - ア 植込苗数は1株当たり3～4本とし、過繁茂や細茎化を防止しましょう。
 - イ 適正植付深度（2～3cm）であるか確認しましょう。
 - ウ 田植機の移植速度が高速になるほど浮き苗や転び苗等が発生しやすくなるので、適正速度で移植作業を実施しましょう。



5 移植後の水管理

- 活着するまでは 3～4 cm のやや深水とし、保温的水管理で低温や強風による植傷みを回避しましょう。
- 活着後は 2～3 cm の浅水管理とし、水温の上昇を図り、分けつの早期発生を促します。
- ワキの発生が多い（水田に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する）場合は、夜間落水を行い、根の健全化を図りましょう。

6 除草剤使用の留意点

- 初期除草剤の使用は移植時または移植後が基本ですが、代かきから移植までの期間が極端に長い場合は移植前に使用してください。ただし、散布は移植 7 日前までに終了してください。
- 除草効果を高めるため、散布後 4～5 日間は除草剤の種類に応じた水深を確保してください。また、散布後 7 日間は止水し、落水やかけ流しはしないでください。
- 散布時の留意点
 - ア 植え傷みにより活着が遅れている場合は、イネの生育回復を待ってから散布します。
 - イ 異常低温又は異常高温時や強風時は、薬害の発生や飛散の恐れがあるので除草剤の散布は行わないでください。
 - ウ 散布前に必ず使用上の注意事項をよく読んでから散布しましょう。